

四国大 8度目の最優秀

学生書道のグランプリ「第29回全日本高校・大学生書道展」(読売新聞社・公益社団法人日本書芸院主催)で、県内からは団体賞の大学の部で四国大(徳島市)が8度目の最優秀校に選ばれた。個人でも文学部書道文化学科の学生7人が最高の大賞を受賞した。(吉田誠一)

かな部門では3人が大賞を受賞。4年新垣祐樹さん(21)は「目指してきた賞を大学最後の年に取れてうれしい。高校で書道を教えながら、自分も制作に励みたい」。2年井原みくさん(19)は「高校で大賞した展覧より大きな賞をもらえた。書道に深くかかわっていききたい」と喜んだ。2年川村成太郎さん(20)は「自分が満足できる作品にと努めた。受賞を励みに書道に取り組みたい」と誓った。漢字部門では2人が受賞。3年北村詩さん(20)は「今回

全日本高校・大学生書道展



大賞を受賞した(前列左から)新垣さん、井原さん、川村さん、(後列左から)北村さん、木許さん、乃村さん、森元さん(徳島市で)

は創作に挑戦し、臨書で培った成果を発揮できた。さらに技術に磨きをかけた」と意気込む。2年木許花音さん(20)は「昨年の出品作を超え漢字とかなが交じる調和体

7人大賞「受賞励みに挑戦」

部門も2人が選ばれた。3年乃村汐奈さん(21)は「なかなか上の賞をもらえず、今年こそはと頑張った。もう一度基礎・基本から見直して、作品と向き合う機会を増やしたい」。1年森元陽莉さん(18)は「大学での目標にした賞をまさか最初の年にもらえるとは思わず、とてもうれしい。様々な作品に挑みたい」と喜んだ。書道文化学科には全国から書道教師や書道家志望の学生が集まっている。指導した同科の田ノ岡大雄講師(40)は「書ける子たちがそろい、自分でぐんぐん伸びてくれるのを、毎回作品を見せてもらうのを楽しみに指導した。学内で夜遅くまで懸命に制作し、しっかり書き込んだ作品を出してくれた」とたたえた。大賞56点のほか、展覧、優秀賞の計907点は21、25日、神戸市灘区の「原田の森ギャラリー」で展示される。また、21日以降は日本書芸院のホームページで展示会場の様子が仮想現実(VR)映像で公開される。